

皆様も、自分の生き方や人生に影響を与えてくれた、恩師や師匠ともいえる人がいることでしょう。それは、時には両親だったという方もいるかもしれません。

曹洞宗をお開きになった道元^{どうげん}禅師は、幼少のころ両親を失いました。しかし、道元禅師には、仏教^{した}を親しく教えてくださった師匠がいました。

その方が如浄^{によじょう}禅師です。如浄禅師は、お釈迦さまから数えて五十一代目に教えを受け継がれた方で、中国の天童^{てんどうじ}寺の住職でした。道元禅師がお釈迦さまの正しい教えを求めて中国に渡り、いろいろなお寺を訪ね歩いた末、ようやくたどり着いた天童寺で、師匠となる如浄^{めぐ}禅師に巡り合ったのでした。

道元禅師と如浄^{してい}禅師との師弟関係がどのようなものであったかは、道元禅師が書き遺^{のこ}された「宝慶^{ほうきょうき}記」に詳しく書かれています。

天童寺に入門してすぐの者は住職である如浄禅師に会うことは許されません。入門して二か月ほど経ったころ、道元禅師は「直接会って教えを乞^こいたい」と如浄禅師に一通の手紙を書きます。

遠く日本から入門し、来る日も来る日も一生懸命修行に打ち込む道元禅師の姿は、如浄禅師の目にとまっていたのでしょう。如浄禅師の返答の手紙にはこのようなことが書かれています。

「道元よ、これからは昼でも夜でも時間に関係なく、正装でも普段着でもかまわないから、私の部屋に来てなんでも尋ねなさい。私は、父親が息子の無礼を許すのと同じ気持ちで迎えるであろう。」

遠く中国の地で巡り合った師匠^{こころよ} 如浄禅師に、「快く会うことを許されたのです。その上、如浄禅師は、親子のような気持ちで接して下さると言われたのです。如浄禅師は、道元禅師がすでに両親をなくされていたことを知らなかったと思われます。にもかかわらず、そのように如浄禅師から返答を受けた道元禅師の喜びは、いかばかりであったことでしょう。

道元禅師の天童寺での修行は、三年の長きに及びました。その間、多くのお釈迦さまの正しい教えが、如浄禅師より道元禅師に親しく受け継がれたのです。

お釈迦さまが開かれた仏教は、達磨^{だるまだいし}大師によりインドから中国に伝えられ、如^{によじょう}浄

禅師から道元禅師に伝えられたことにより、海を渡り日本にもたらされたのです。

如浄禅師と道元禅師の出会いがなければ、曹洞宗がないばかりではなく、お釈迦さまの正しい教えを、今、私たちが聞くことはなかったのです。

— 終 —